

加賀野菜

へ夕紫なす

栽培マニュアル





【へ夕紫なす】

科名 ナス科
代表産地 崎浦地区

特徴 果実のへタの下まで紫色になる。形は卵のよう
で、別名「丸ナス」とも呼ばれている。色は漆
黒で艶がある。

品種特性 草勢は強く枝は中間性で熟期は中生である。盛
夏でも色ボケや成り疲れが少ない。品質は良好
で、果皮は軟らかく肉質も適度にしまり、煮物
や漬物に利用され、特に糠漬け用に好まれる。
収量性はやや劣る。



栽培カレンダー

● : 播種 ■ : 定植 ■ : 収穫

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トンネル 早 熟	●	■	■	■								
普 通	●	■	■	■								

1 播種

【播種時期】

- ・接ぎ木を行う場合、ナスの育苗にはトンネル栽培で90日前後を要する。
- ・定植予定日から遡り、播種日を決定する。

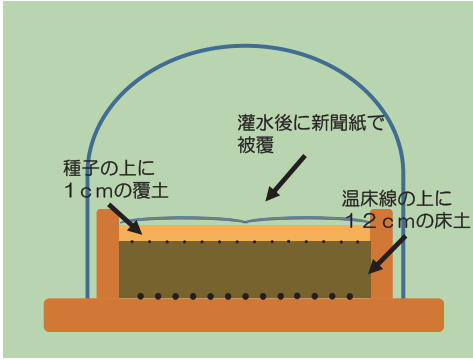
A 床へ播種

【播種床の準備】

- ・播種床に温床線を張り、その上に12cm程度の厚さで床土を盛る。
- ・十分に水分を含ませ、播種当日までに28度程度まで加温しておく。

【播種】

- ・播種床に条間5cm、株間4cm程度の印を付け種子を落としていく。
- ・播種後、砂で1cm程度の覆土を行い、しっかりと灌水する。
- ・保温と保湿のため新聞紙をかけ、再度、灌水を行い、新聞紙を湿らせる。
- ・温度の上がりにくい播種床の端は、さらにポリで被覆すると良い。
- ・最後に播種床にトンネル被覆を行う。
- ・新聞紙が乾燥してきたら、地温程度に温めた水で灌水を行う。



床幅が広く中央部が播種しにくい場合は板などを渡し作業を行う

【播種パレットの準備】

- ・台木、穂木ともに72穴のセルトレイに播種を行う。
- ・それぞれに用土を詰め、十分に水分を含ませ、播種当日までに28度程度まで加温しておく。

B セルトレイへ播種

【播種】

- ・播種、覆土後、Aと同様に、乾燥を防ぐため新聞紙で表面を覆い、再度灌水し、新聞紙を湿らせる。
- ・新聞紙が乾燥してきたら、地温程度に温めた水で灌水を行う。



- ①セルトレイに用土を詰め、表面をすり切り整える
- ②中央に深さ5mm程度の穴を開ける
- ③種を落とし周りの土を寄せる

温度管理 (共通)

【温度管理】

- ・発芽までは、地温で日中30度、夜間20度の変温管理とする。
- ・発芽後は、気温で日中26度〜28度、夜間20度で管理する。
- ・灌水はやや控えめとし、過湿にならないようにする。

台木選び(共通)

- ・「台太郎」「茄の力」「トルバムビガー」等を用いる。
- 【本葉2〜3枚程度で接ぎ木を行う場合】
「台太郎」「茄の力」は穂木と同日〜2日早播き、生育の緩やかな「トルバムビガー」は2週間程度の早播きを目安とする。
- 【本葉3〜4枚程度で接ぎ木を行う場合】
「台太郎」「茄の力」は穂木と2〜5日早播き、「トルバムビガー」は3週間程度の早播きを目安とする。

2 接ぎ木

【接ぎ木までの準備】

- ・育苗床の外側にはポリフィルムを掛け合わせてトンネルを張り、ポットの上にポリフィルムをべた掛けし、温度と湿度を確保できるようにしておく。
- ・4号程度のポリポットに土を詰め、灌水した後、トンネル内で26度〜28度に加温しておく。
- ・台木、穂木とも接ぎ木までに十分に日光に当て、養分を蓄積させておく。
- ・曇天が続く場合は接ぎ木を遅らせることも検討する。

【接ぎ木】

- ・ナスの接ぎ木には様々な手法が用いられるが、ここでは「割り接ぎ」及び「ピン接ぎ」について紹介する。

< 割り接ぎ >

【穂木】

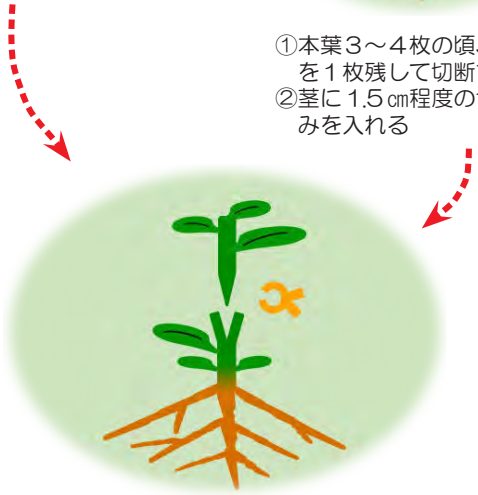


- ①本葉3〜4枚の頃、本葉を3枚残り切断する
- ②断面をくさび型に削ぐ

【台木】



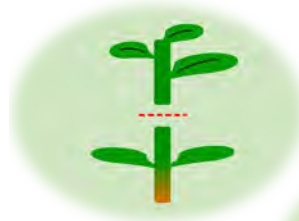
- ①本葉3〜4枚の頃、本葉を1枚残り切断する
- ②茎に1.5cm程度の切り込みを入れる



台木の切り込みに穂木を差し込み、継ぎ目をクリップで固定する

< ピン接ぎ >

【穂木】

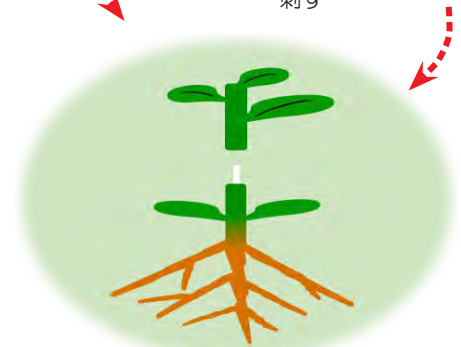


本葉2〜3枚の頃、子葉の上で切断する

【台木】



- ①本葉2〜3枚の頃、子葉の上で切断する
- ②茎の中心にピンを刺す



茎がずれないように穂木をピンに刺す
(注) 刺し直しは活着不良に繋がる

温度管理

【接ぎ木当日〜3日目】

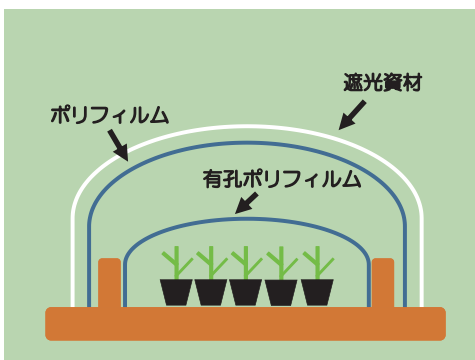
- ・接ぎ木苗に触れない程度の高さに、有孔ポリフィルムでトンネルを張り、遮光資材（こも、タイベック等）で被覆し、28度を目標に管理する。
- ・接ぎ木当日を含む3日目の夕方に内側のトンネルを外し、湿度を下げていく。

【接ぎ木4日目〜7日目】

- ・萎れない程度に、徐々に光を当てていく。
- ・5日目以降は、朝夕の気温の低い時間帯に、トンネル上部10cm程度の換気を行う。換気は最初1時間程から開始し、徐々に開口幅と時間を延ばす。

【接ぎ木8日目以降】

- ・通常の苗の管理に移行する。順化が完了していないものは別管理とする。



3 定植

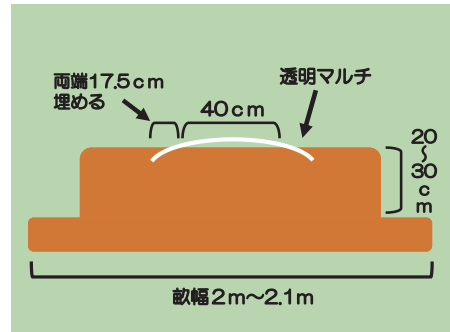
【定植までの準備】

- ・ 10 aあたり苦土石灰140 kg、堆肥150 kgを前年の作付け後に施用し、耕起しておく。
- ・ 水はけの悪い圃場では、周囲に明きよ等の排水対策を行う（圃場が長時間浸水すると、根の呼吸が妨げられる）。
- ・ 定植2週間前までに基肥を全面施用し、耕起、畝立て、マルチ被覆を行う。



防風ネットは高さ2m以上あれば十分に風を防ぐことができる

畝は幅2m×2m10cm、高さ20×30cmとする。定植後の地温の確保、土壌の乾燥防止のため、畝の中央に透明なポリマルチ（75cm幅を使用）を40cm幅程度設置する。強い風は、葉の痛みや果実表面の擦れの原因となるため、圃場の周囲4面に高さ1m50cm×2mの防風ネットを設置すると良い。



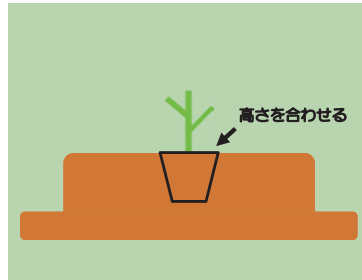
（注）マルチを全面に張ってしまうと株元に水が届かない

施肥設計(例) (kg/10a)

肥料名	基肥	はま合わせ	追肥	成分量
固形30号	30	30	120	N:49.8
有機特A801号	30	30	160	
溶リン	20	20		P ₂ O ₅ :50.6
硫マグ	20	20	20	
鶏ふん		135		K ₂ O:45.6
油粕	100	100		

【定植】

- ・ 定植は風が穏やかで温暖な日を選び、午後3時までには作業を終え、トンネル内の温度確保に努める。
- ・ 畝の中央に移植ゴテでポットよりもひと回り大きめの穴を掘り、亜リン酸粒剤1号（20×30kg/10a）を入れる。
- ・ 圃場の病害虫の発生状況に合わせ、株元や植え穴に殺虫・殺菌用の薬剤（粒剤）を施用する。植え穴に施用する場合は、穴の中に水を注ぎ、薬剤をかき混ぜ土壌と馴染ませる。
- ・ 水が引いたら、ポットから苗を取り出し植え付ける。ポットの表土が畝の表面と合う程度の深さに植え付け、深植えになりすぎないように注意する。
- ・ 竹弓やダンポールでトンネル支柱を設置し、定植後、しっかりと株元に灌水を行い、透明または薄色のポリフィルムで被覆する。



（注）深植えにすると根の呼吸が妨げられる



トンネルは風が吹き込まないよう隙間なく張り、両端はしっかりと固定する

【定植後の管理】

- ・ 定植後7×10日間は密閉し、保温と活着促進に努める。
- ・ トンネル内温度が35度を越えることが予想される時期には、予め株の真上に換気穴を開けておき気温の上昇に合わせて穴を広げていく。
- ・ 被覆期間は定植後1か月間を目安とし、トンネルを除去する数日前から外気温に慣らしていく。

温度計を設置→



トンネルの頂点に換気穴を開ける